

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年9月18日

予報期間：9月20日～10月19日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

全国的に、向こう1か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北・東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
西日本太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:20:70	20:40:40 20:40:40	30:40:30 30:40:30	
東日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	20:40:40 30:30:40	30:40:30 30:30:40	
西日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	30:30:40 30:30:40	30:30:40 30:30:40	
沖縄・奄美		10:10:80	20:40:40	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:40:50	10:10:80	10:20:70
東日本	10:20:70	10:10:80	10:20:70
西日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
沖縄・奄美	10:10:80	10:10:80	10:20:70

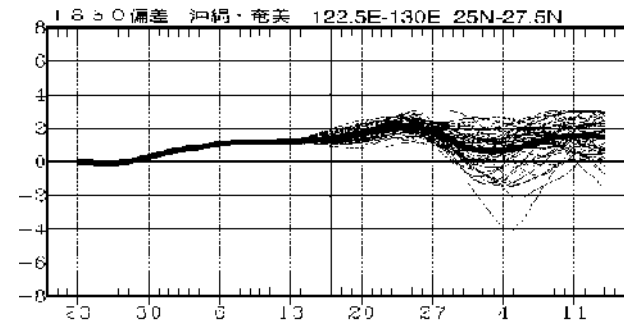
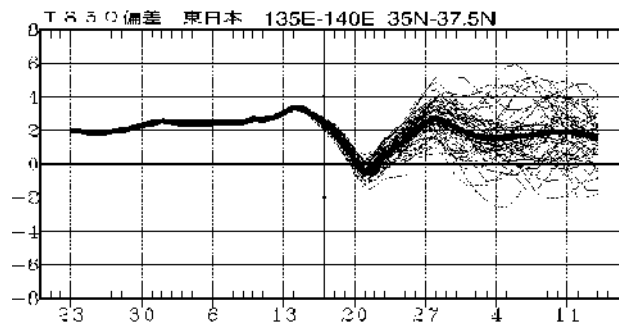
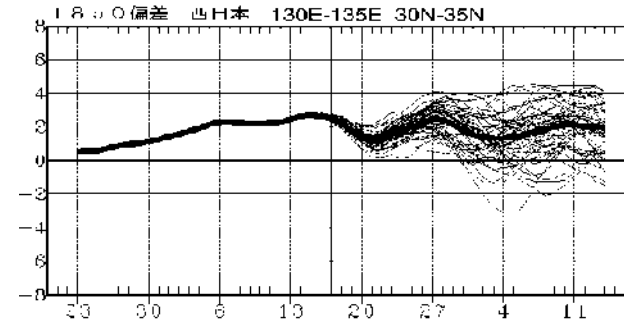
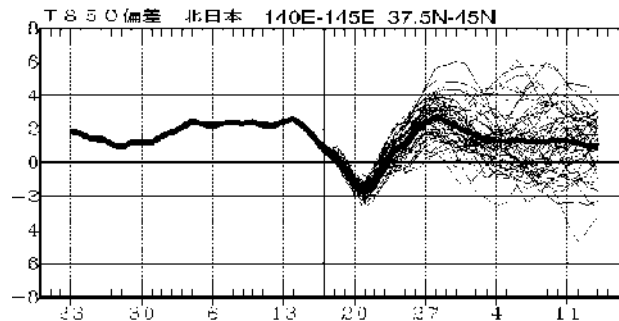
全般1か月予報のポイント

- ・北・東・西日本では6月中旬以降、沖縄・奄美では8月上旬以降、暖かい空気に覆われ、気温の高い状態が続いています。向こう1か月の気温も、暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高い状態が続き、期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- ・向こう1か月の降水量は、北日本と東日本日本海側では、低気圧や前線の影響で、沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、平年並か多いでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(9/20～9/26)	2週目(9/27～10/3)	3～4週目(10/4～10/17)
想定される 天候 (気温)	暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高く、東・西日本と沖縄・奄美ではかなり高いでしょう。	暖かい空気に覆われやすいため、全国的にかなり高いでしょう。	暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高いでしょう。
根拠	偏西風が北偏して流れる。北日本を中心に近海の海面水温が高い影響も受ける。(P.8,P.12参照)	偏西風が北偏して流れる。北日本を中心に近海の海面水温が高い影響も受ける。(P.8,P.12参照)	偏西風が北偏して流れる。北日本を中心に近海の海面水温が高い影響も受ける。(P.8,P.12参照)

850hPa気温 偏差時系列

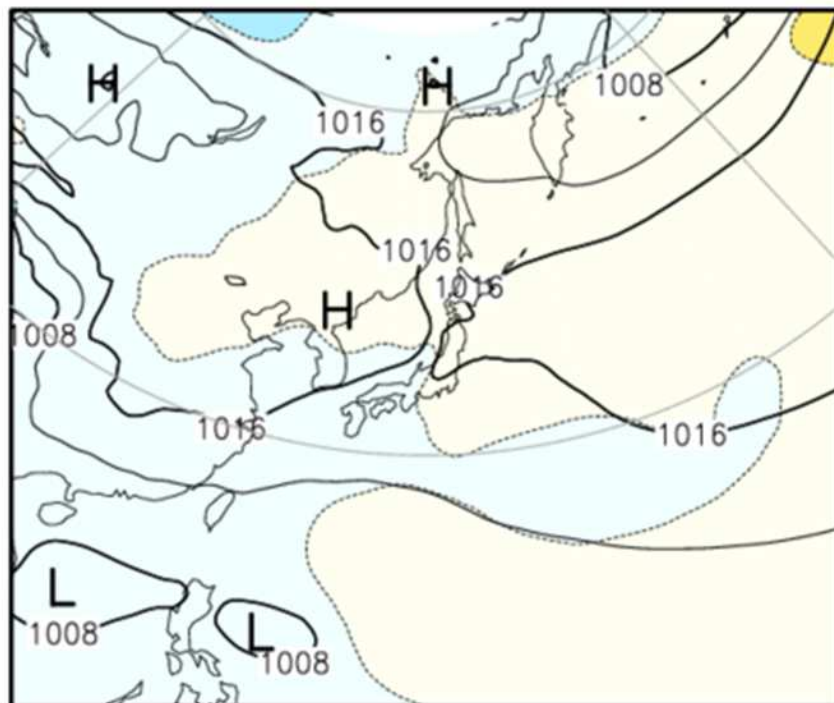


各週における天候のポイント(天気)

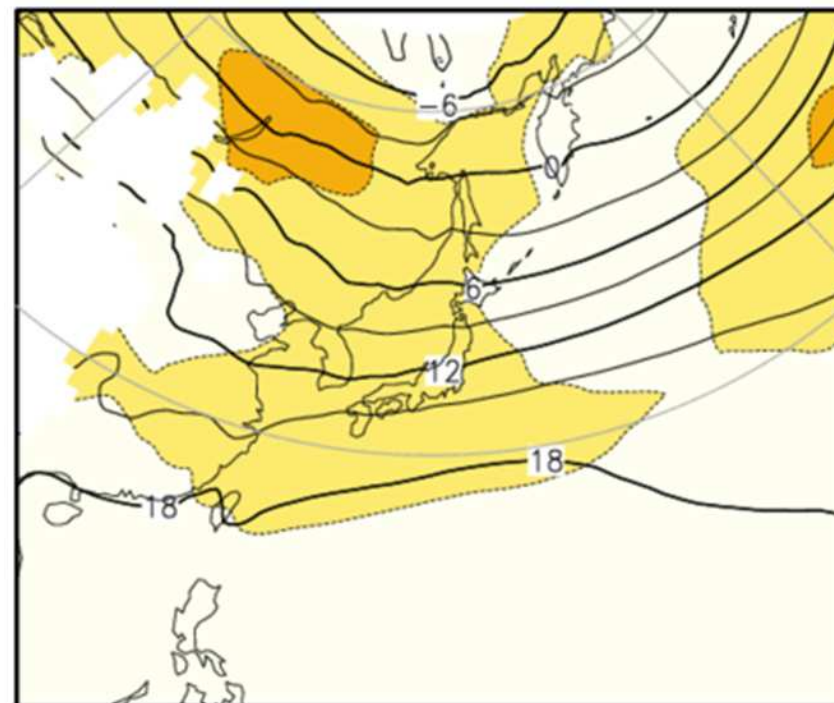
	1週目(9/20～9/26)	2週目(9/27～10/3)	3～4週目(10/4～10/17)
想定される 天候 (天気)	北日本と東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 西日本太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	北・東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 西日本太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	北・東日本と西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 西日本太平洋側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
根拠	北日本と東日本日本海側では平年同様の天候だが、低気圧や前線の影響で降水量が多くなる可能性がある。 東日本太平洋側では、高気圧に覆われやすいため、降水量が平年並か少なく、日照時間が平年並か多い。 (P.10-13参照)	全国的に平年と同様の天候だが、東日本太平洋側、西日本では前線や湿った空気、沖縄・奄美では、湿った空気の影響で、降水量が多くなる可能性がある。(P.10-13参照)	全国的に平年と同様の天候だが、東・西日本太平洋側では前線や湿った空気の影響を受ける時期がある。沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受ける時期がある。 (P.10-13参照)

数値予報モデルからみる全般1か月予報のポイント

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

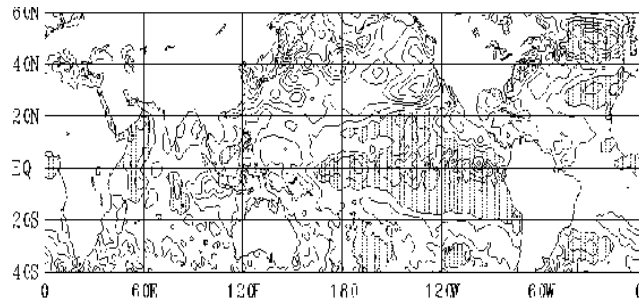


1か月平均の海面気圧(左図)は、北日本付近には気圧の谷があり、北日本と東日本日本海側では、低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるでしょう。また、東シナ海付近では気圧が低く、沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

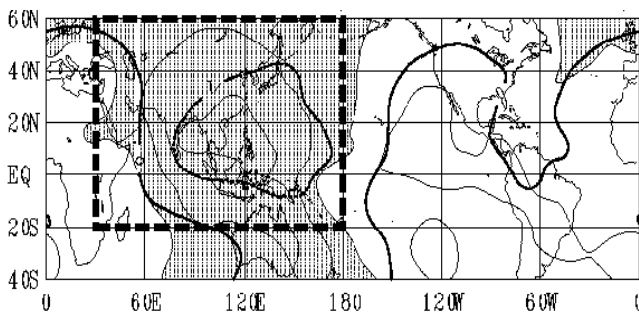
上空約1500mの気温(右図)は、全国的に暖かい空気に覆われやすいため、平年より高いと予測されています。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

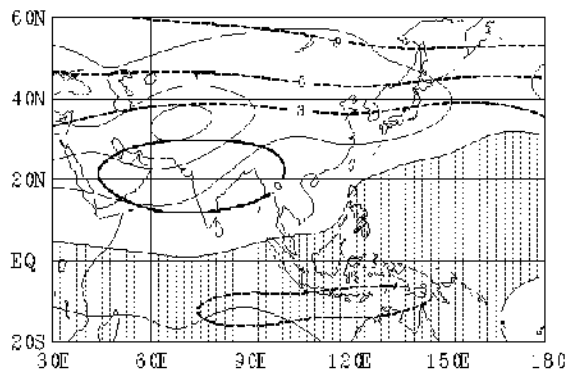
SST偏差



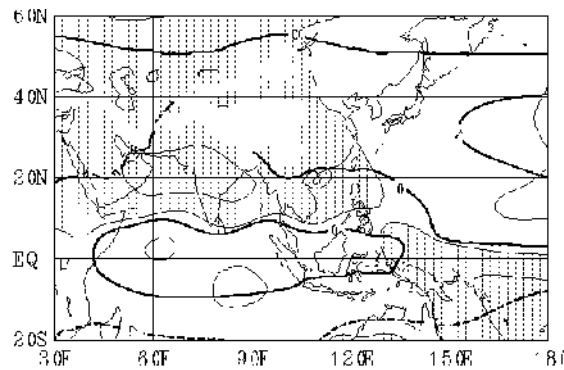
200hPa速度ポテンシャル



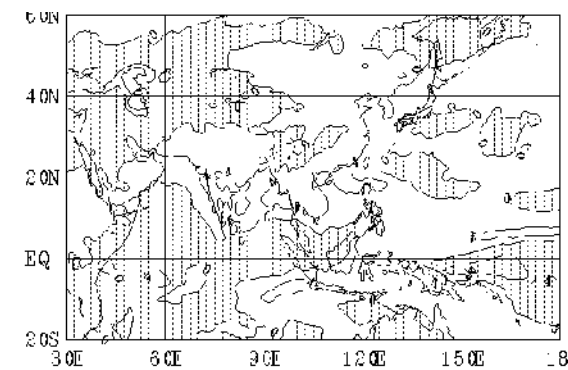
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量



SST偏差は、ラニーニャ現象的かつ負のインド洋ダイポールモード的な分布。また、日本海から北太平洋中緯度帯で広く強い正偏差。

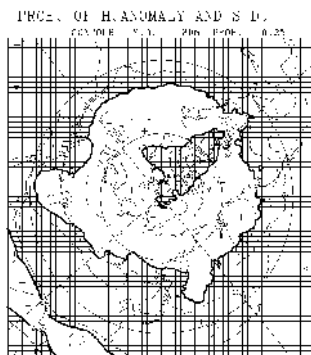
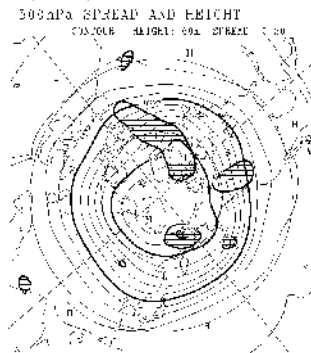
200hPa速度ポテンシャルは、SST偏差に関連し、インド洋東部からインドネシア付近で発散偏差、太平洋熱帯域の中部で収束偏差。

200hPa流線関数は、亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播の影響もあって、黄海付近を中心に高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数は、対流活動に関連しインド洋北部からフィリピン付近で低気圧性循環偏差。

降水量は、インド洋北部からフィリピン付近で多雨偏差。

予報資料の解釈(1か月) 北半球循環場

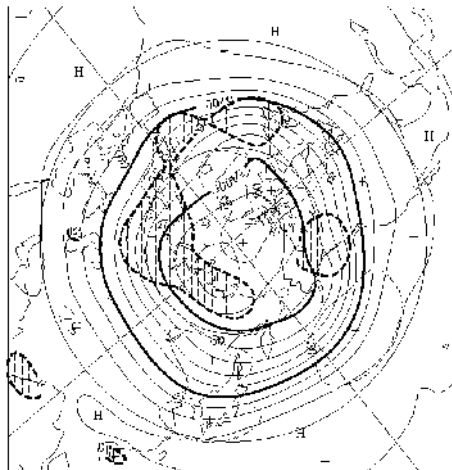


500hPa高度は、ロシア西部で負偏差、東シベリアから日本付近にかけて正偏差。また、日本付近は、広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

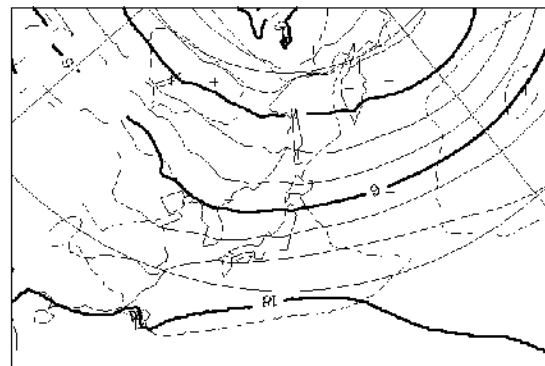
850hPa気温は、日本付近は正偏差。

海面気圧は、北日本付近に気圧の谷があり、北日本と東日本日本海側では、低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある。また、東シナ海付近では気圧が低く、沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

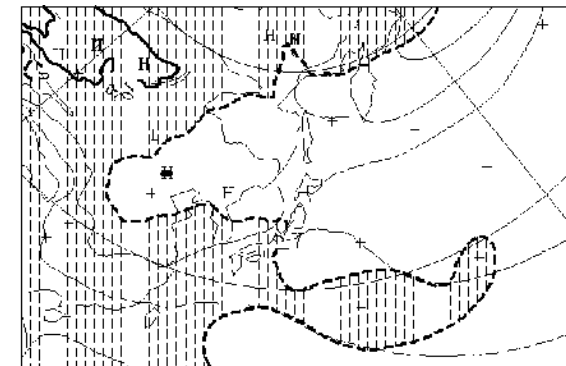
500hPa高度



850hPa気温

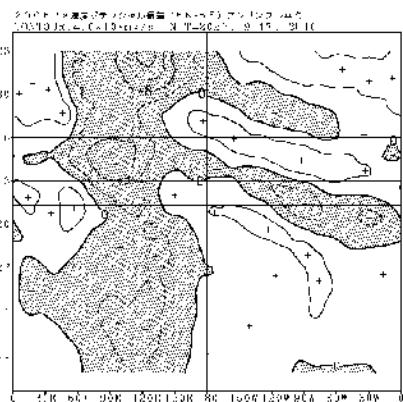


海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



200hPa速度ポテンシャルは、インド洋北部からフィリピン付近で発散偏差、太平洋熱帯域の中部から東部で収束偏差が持続する予測。

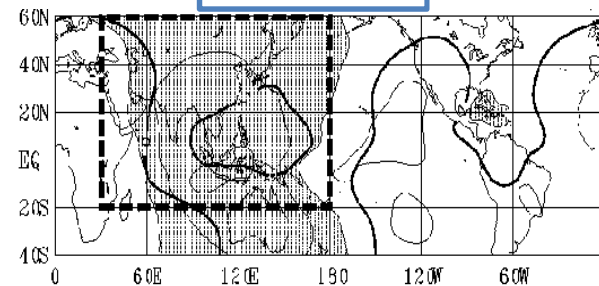
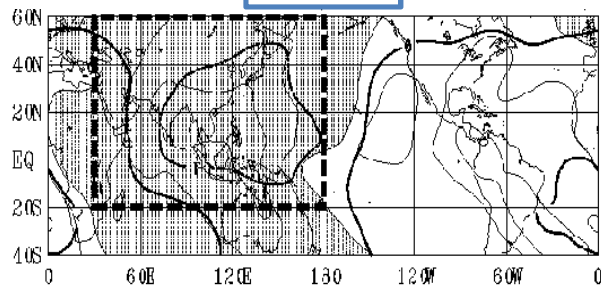
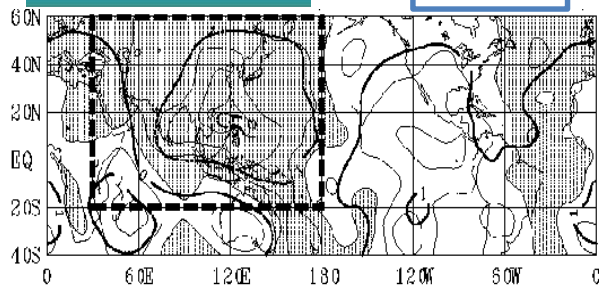
降水量は、期間の前半はインドからフィリピン付近で多雨偏差、期間の後半はインド洋熱帯域の南東部からインドネシアにかけて多雨偏差となる。また、日本付近では、2週目中心に多雨偏差。

200hPa速度ポテンシャル

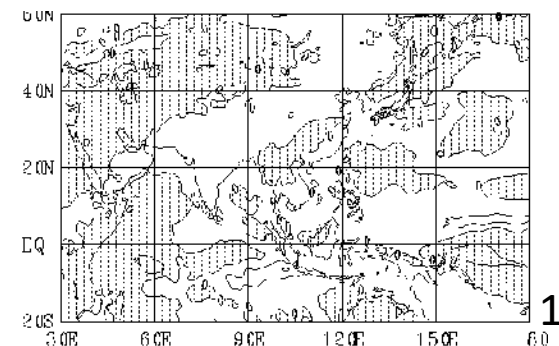
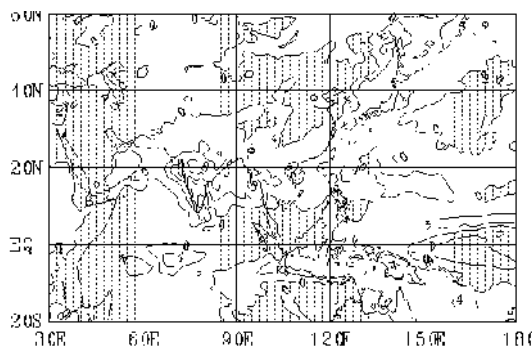
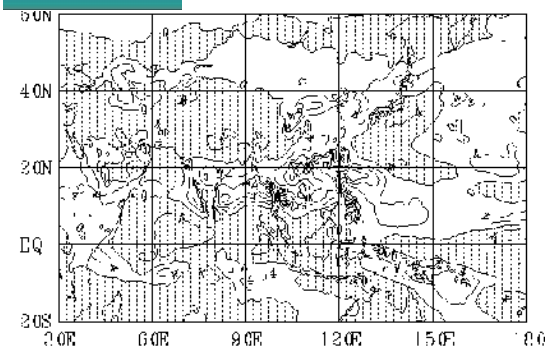
1週目

2週目

3~4週目



降水量



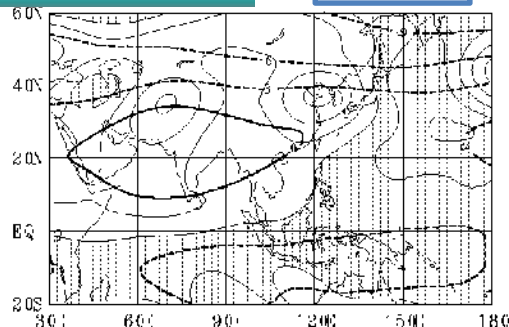
予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、1週目は、黄海付近を中心に高気圧性循環偏差(西からのロスビー波束伝播も寄与)に覆われる。2週目は、日本の東を中心に高気圧性循環偏差に覆われるが、黄海付近は相対的な低気圧性循環偏差となり、日本付近は西谷。3～4週目は、日本付近は高気圧性循環偏差。

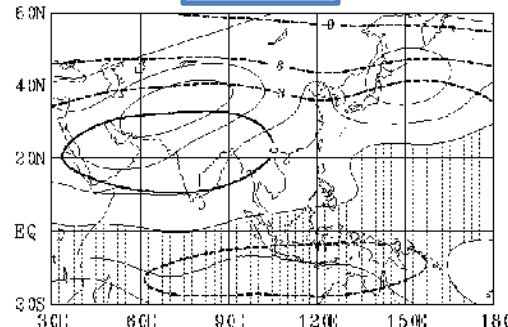
850hPa流線関数は、1週目は、南シナ海付近で低気圧性循環偏差、一方、本州付近を中心に高気圧性循環偏差が強く(対流活動と上層の高気圧性循環偏差の影響)、東・西日本から沖縄・奄美付近を覆う。2週目は、上層の高気圧性循環偏差の弱まりに伴い、日本付近は低気圧性循環偏差となるが、3～4週目は、日本の南は高気圧性循環偏差に戻る。

200hPa流線関数

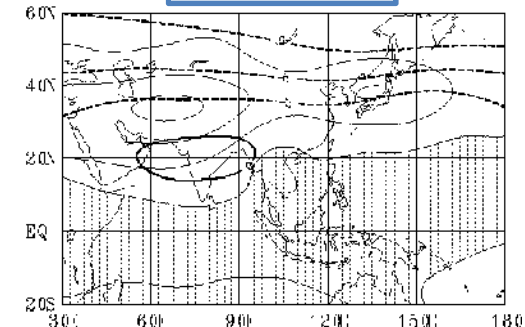
1週目



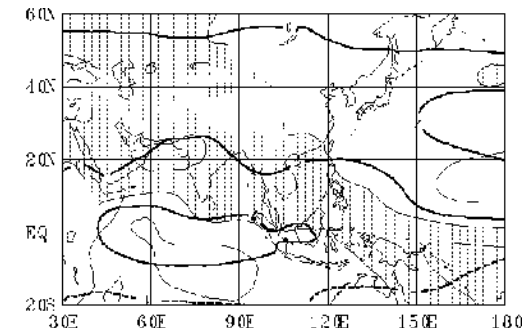
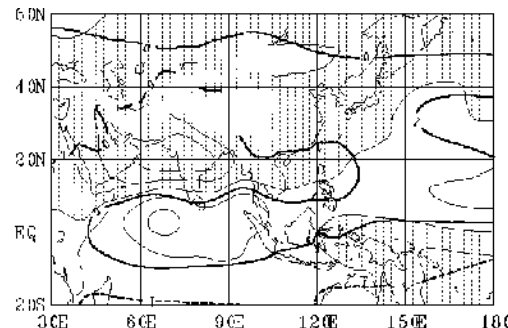
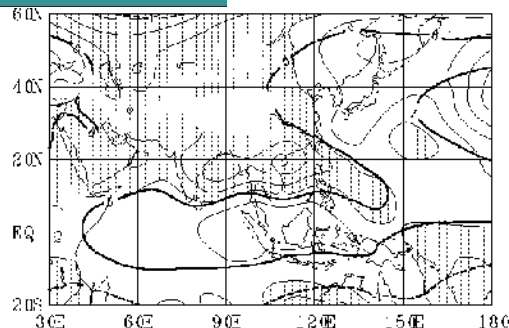
2週目



3～4週目



850hPa流線関数



予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

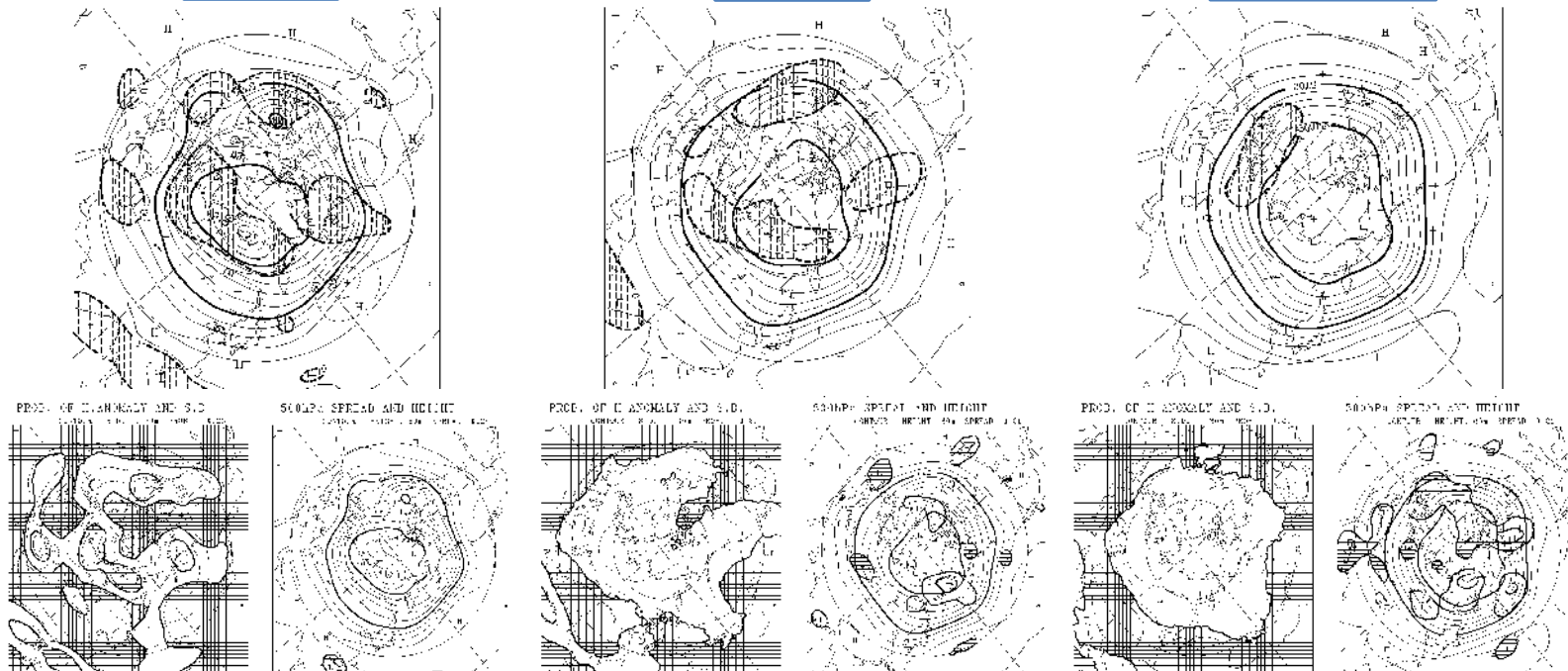
500hPa高度は、日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域にほぼ覆われる。1週目には正偏差の中心は黄海付近だが、2週目には朝鮮半島付近が気圧の谷となり、日本付近は西谷となる。このため、2週目を中心に東日本太平洋側と西日本では前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるほか、沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすい時期がある。なお、期間の前半はスプレッドの大きな領域が南シナ海付近にあり、熱帯じょう乱の予測の不確実性を示している。3～4週目には、西谷傾向がやや弱まる。

500hPa高度

1週目

2週目

3～4週目



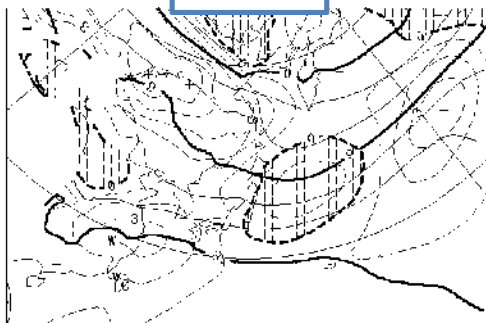
予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、1週目は華中付近からのびる正偏差域が東シナ海付近を覆う一方、日本の東は負偏差で、一部は北・東日本太平洋側を覆う。2週目以降から日本付近は、広く正偏差に覆われる。

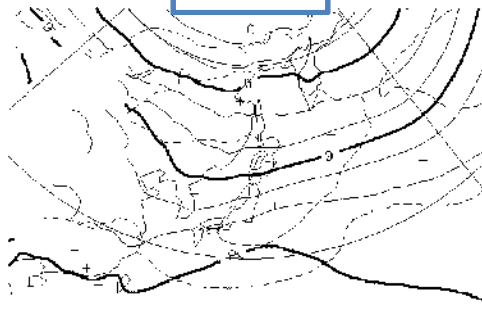
海面気圧は、1週目は、北日本と東日本日本海側では、低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある。東日本太平洋側では、高気圧に覆われやすい。西日本では周期変化、沖縄・奄美では高気圧の縁を回る湿った空気や熱帯じょう乱の影響を受ける時期がある。2週目は、日本付近は気圧の谷となり、本州から沖縄・奄美付近を中心に湿った空気の影響を受けやすい時期がある。3～4週目には、本州南岸付近で気圧の谷。

850hPa気温

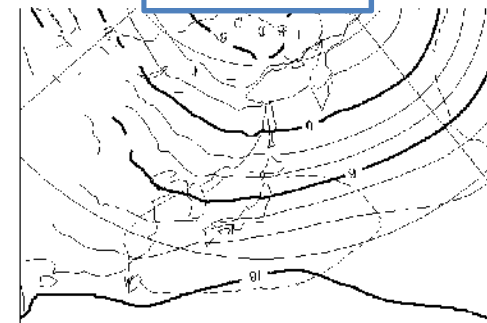
1週目



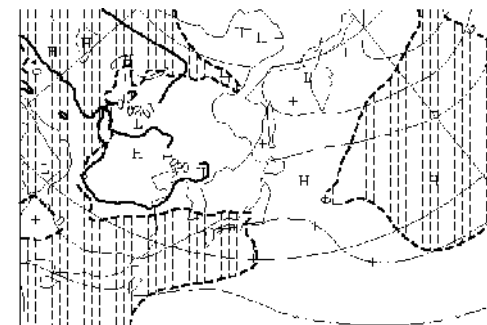
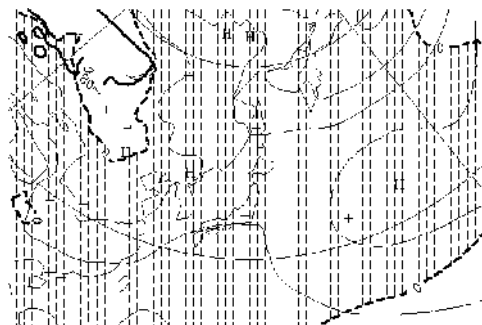
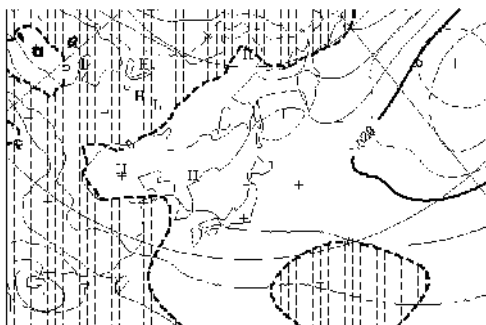
2週目



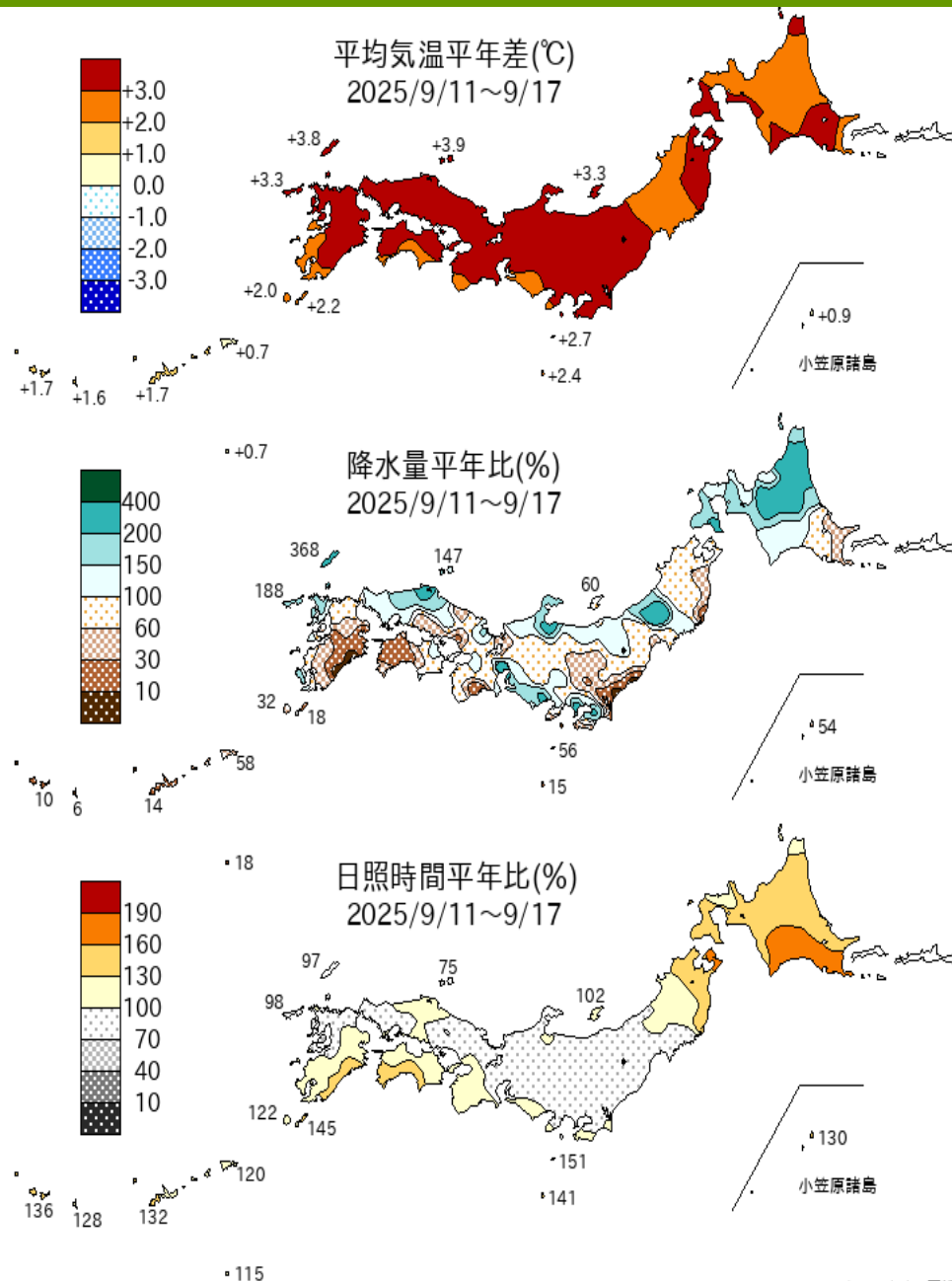
3～4週目



海面気圧



(参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(9月11日~9月17日)は、北日本では、低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は周期的に変わりましたが、低気圧の影響で北海道地方では記録的な大雨となった所もありました。東・西日本では、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、記録的な大雨となった所もありました。一方、沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。これらのことから、降水量は、北・東・西日本では平年を上回った所がありました。日照時間は北日本と沖縄・奄美では平年を上回りましたが、東・西日本では平年を下回った所がありました。気温は、暖かい空気に覆われるとともに、低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込んだため、全国で平年を大きく上回り、猛暑日となる所もありました。